

(6) 心疾患を伴う整形外科患者に対する運動療法の効果

川崎医療福祉大学大学院 リハビリテーション学専攻 博士課程 大槻 桂右
川崎医療福祉大学 リハビリテーション学科 渡邊 進
川崎医療福祉大学大学院 感覚矯正学専攻 博士課程 藤原 篤之

【要 旨】

【目的】心疾患で入院や受診した患者の労作時息切れや疲労感は心疾患特有症状だが、高齢者によく存在する変形性関節症などの整形外科的疾患の影響はないのだろうか。骨関節系の痛みのために労作時息切れや疲労感が出現する部分があるならば、整形外科的理学療法にて労作時息切れや疲労感の改善は可能ではないだろうか。今回、我々は心疾患に変形性膝関節症を合併する患者群に対して変形性膝関節症に対する運動療法プログラムを4週間実施した。

【対象と方法】当院に入院または外来受診された変形性膝関節症に何らかの心疾患を合併する患者29名(男性4名,女性25名)とした。膝関節症に対する運動療法プログラムを週4回の割合で実施した。測定指標は収縮期血圧(systolic blood pressure; SBP),

拡張期血圧(diastolic blood pressure),脈圧(pulse pressure; PP),心拍数(heart rate; HR),二重積(double product; DP)とし、安静時ならびに運動直後に測定した。膝関節痛は Visual Analog Scale (VAS)を用いて評価した。また生理学的コスト指数を用いてエネルギー効率の指標とした。

【結果】4週間後の安静時 DP, HR に有意な低下が認められた。また運動直後では SBP, PP, DP に有意な低下が認められた。VAS は有意な低下を示した。さらに生理学的コスト指数も有意な低下を示し、エネルギー効率が改善していることがうかがえる結果となった。

【結論】本研究結果から、心機能負担を軽減するためには骨関節系の疾患の治療も有用ではないかという示唆を受けた。